

賛否など態度決定に至った理由・討論

令和7年9月定例会	
議案番号 議案名	認定第1号 令和6年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について
議員名・会派名等	嶋原 舞
賛否態度	賛成
賛否など態度決定 に至った理由や 討論	会派無所属 参政党の嶋原舞です。 認定第1号 令和6年度松戸市一般会計歳入歳出決算の認定について、全体の総評として賛成討論いたします。 執行部の皆様には、日々の市政においてご尽力いただいておりますこと、改めて感謝申し上げます。 今回の決算においては、定年延長に伴う退職者数の増加により人件費の増、放課後児童クラブ運営費の増、さらには障害児者介護給付費や児童手当改正による扶助費の増額といった要因が歳入の増額分を上回ったことにより、経常収支比率が上昇しました。 しかし、いずれも現時点で市民生活を守るために欠かせない、必要な支出であったと考えます。 加えて、受益者負担の適正化、事業の廃止・統合・縮小、歳入確保策の強化、税収の適正確保や財源確保策の推進については既に方針として掲げられており、来年度さらに一層進めていただけるものと期待しております。 前述のとおり、積極的に子育て施策に取り組んできたことによる福祉費、市単独事業の扶助費の割合が多くを占めているのは、必要な支出であると認識しております。

しかし、これからのまちづくりは、道路や施設といったハードの整備と同様に、健やかでしなやかな心を育てる「ひとづくり」が非常に重要であり、その方向に沿った政策を意識していただきたいと考えます。

今年、令和7年3月の一般質問において、愛着について質問した際、子ども部長から「保護者や養育者との安定した愛着形成は、子どもの情緒の安定や自己肯定感、さらには将来的な社会性の発達に大きく寄与する」との答弁をいただきました。

親子、特に0歳から2歳ごろまでに共に過ごす時間は、子どもの成長を支えるだけでなく、親自身をも成長させる大切な時間です。

お母さんと子どもが一緒に過ごせるようにするための施策として、親子で利用できる広場やほっとする一む、まつどで繋がるステーションなど、多くの受け皿が整えられていることは評価いたします。

しかし、子どもの人格形成において極めて大きな影響を及ぼすこの時期をどう扱うかという視点を、政策を担う幹部職員の皆様と共有していただきたい。

親がいかに働きやすく、子どもを預けやすくするかという視点に加え、子どもが母親や父親と過ごす時間をどう増やすか、そのために親をどう支援するかという逆の視点を持った政策を、国に先んじてぜひ取り入れていただきたいと考えます。

また、決算の中では、教育費において、先人の残した有形・無形の文化的遺産の中に優れたものを見だし、それを生み出した精神に学び、継承・発展させていくという学習指導要領に則った施策も多数盛り込まれていました。

私も、松戸市の発展と創造のため、また国際社会の中で主体性をもって生きていくためには、他国との違いを学ぶ機会と同時に、国や地域の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を育むことが不可欠だと考えます。

そしてその最たる文化が、日本語という言葉です。

我が国日本、そして郷土松戸への親しみや愛着を深め、異なる文化を持つ外国人との関わりを考え、日本人としての自覚を持ち、

文化の継承・発展・創造、さらには社会の発展に貢献できる能力や態度を養う意識が、教育費の枠を超えて市全体の政策の基礎となり、来年度の政策に反映されていくことを期待いたします。

以上、これらの視点を踏まえ、本決算に対する賛成討論といたします。